

平成 26 年 11 月 17 日

お客様各位

アリスタ ライフサイエンス株式会社

「オルトラン[®]水和剤」「オルトラン[®]粒剤」登録内容変更のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社 殺虫剤「オルトラン[®]水和剤(登録番号:第 19992 号)」および「オルトラン[®]粒剤」(登録番号:第 19993 号)におきまして本日 11 月 17 日付で登録内容が別紙「表示変更ラベル」のとおり変更になりました。

つきましては、お取扱各位へ登録内容変更の周知ならびに変更後の登録内容に従った使用方法についてのご指導、また、旧ラベル製品を出荷・販売される際は『表示変更ラベル』の個装への貼付にご協力を賜ります様、何卒お願い申し上げます。

なお、『表示変更ラベル』につきましては、電子ファイル版も用意しておりますので、お気軽にお申し付けください。

敬具

表示変更ラベル

平成 26 年 11 月 17 日付で、以下の登録内容が変更となりました。

日本では、農薬の安全性を一層担保するために、今年から短期暴露評価が導入されることになりました。この評価にあたり、オルトラン水和剤は自主的に登録縮小の申請をし、登録されました。これは、新たに登録された使用方法で想定される最大の農薬残留が認められる作物を、たとえ通常より非常に多く1日に摂取した場合でも、健康に影響を与えないようにするためです。このため、生産者の皆さまにおかれましては、以下の新しい登録内容にてご使用いただきますようお願いいたします。

●農薬登録の削除作物について

下記作物への適用が削除されました。オルトラン水和剤の使用をしないようお願いします。

作物名			
かんきつ	トマト	ミニトマト	ブロッコリー
だいこん	なす	かぶ	はつかだいこん

その他、「たかな」が非結球あぶらな科葉菜類から作物削除、「とうもろこし」が「未成熟とうもろこし」に変更されました。

●使用方法の変更作物について

今後、オルトラン水和剤は、右表のとおり農薬登録変更内容においてご使用願います。

使用上の注意事項などについては、製品ラベルをご参照ください。

【変更後】使用方法（変更部分のみ抜粋）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
キャベツ	ヨウムシ、ハスモンヨウタマナギンウバ	1000~1500	100~300g/10a	収穫30日前まで	1回	散布	2回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は1回以内)
	アオムシ、コナガ、アブラムシ類	1000~2000					1回
はくさい	カブラハバチ、ヨウムシ、ハスモンヨウ	1,500	100~300g/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	1回
	アオムシ、コナガ、アブラムシ類	1500~2000					3回以内
レタス	ヨウムシ	1000~1500	100~300g/10a	収穫21日前まで	1回	散布	3回以内
	オオタバコガ	1,000					1回
非結球あぶらな科葉菜類 (ケール、からしなみずな、ルッコラ、 たかな を除く)	アブラムシ類	1,500	100~300g/10a	収穫開始7日前まで	1回	散布	1回
オクラ	アブラムシ類、トリヨコバイ	1,000					2回以内
ばれいしよ	テトウムシダマシ幼虫、ヨウムシ	300	25g/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)
	アブラムシ類						300
てんさい	ヨウムシ、テンサイモグリハナハエ	1000~1500	100~300g/10a	収穫45日前まで	3回以内	無人ヘリコプターによる散布	4回以内 (育苗期の灌注は1回以内、散布は3回以内)
	トビハムシ類	1,000					
	ヨウムシ	16	1.6g/10a	育苗期	1回	灌注	
	トビハムシ類	300	25g/10a				
未成熟とうもろこし	アブラムシ類	60~100	2.5~3g/m ²	1回	1回	2回以内	
あずき	アズキノメイガ	1,000	100~300g/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類、ヨウムシ						
だいず	ハスモンヨウ、マシジクイガ、アブラムシ類	16	1.6g/10a	収穫14日前まで	3回以内	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
	アブラムシ類						
たまねぎ	ネキアザミウマ	1000~1500	100~300g/10a	収穫21日前まで	5回以内	散布	5回以内
		300	25g/10a				
		16	1.6g/10a				
ぶどう	チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ	1500~2000	200~700g/10a	収穫60日前まで	1回	散布	1回
	ハマキムシ類						
かき	カキウダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カキノヘタムシカ、フジコナカイガラムシ	1,500	200~700g/10a	収穫45日前まで	2回以内	散布	2回以内
	チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ						
茶	チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ	1000~2000	200~400g/10a	摘採45日前まで	1回	散布	1回
	チャノコカモンハマキ	1000~1500					

裏面もご覧ください。

【変更内容】

- ①作物名「キャベツ」の「使用時期」を「収穫 7 日前まで」から「収穫 30 日前まで」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「2 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 1 回以内)」に変更する。
- ②作物名「はくさい」の「希釈倍数」を「1000～1500 倍又は 1000～2000 倍」を「1500 倍又は 1500～2000 倍」、「使用時期」を「収穫 14 日前まで」から「収穫 30 日前まで」、「本剤の使用回数」及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ③作物名「レタス」の「使用時期」を「収穫 14 日前まで」から「収穫 30 日前まで」に変更する。
- ④作物名「非結球あぶらな科葉菜類(ケール、からしな、みずな、ルッコラを除く)」を「非結球あぶらな科葉菜類(ケール、からしな、みずな、ルッコラ、たかなを除く)」に変更する。
- ⑤作物名「オクラ」の「使用時期」を「収穫 7 日前まで」から「収穫開始 7 日前まで」に変更する。
- ⑥作物名「ばれいしょ」の「使用時期」を「収穫 7 日前まで」から「収穫 30 日前まで」、「本剤の使用回数」を「4 回以内」から「2 回以内」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「5 回以内(植付時の処理は 1 回以内、植付後は 4 回以内)」から「3 回以内(植付時の処理は 1 回以内、植付後は 2 回以内)」に変更する。
- ⑦作物名「てんさい」、「だいず」、「たまねぎ」の「使用方法」を「無人ヘリコプター散布」から「無人ヘリコプターによる散布」に変更する。
- ⑧作物名「とうもろこし」を「未成熟とうもろこし」に変更する。
- ⑨作物名「あずき」の「適用病害虫名」を「フキノメイガ」から「アズキノメイガ」に変更する。
- ⑩作物名「ぶどう」の「使用時期」を「収穫 30 日前まで」から「収穫 60 日前まで」、「本剤の使用回数」及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「2 回以内」から「1 回」に変更する。
- ⑪作物名「かき」の「適用病害虫名」の「カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カキノヘタムシガ」の「希釈倍数」を「1000～1500 倍」から「1500 倍」に変更し、「適用病害虫名」の「フジコナカイガラムシ」の「希釈倍数」を「1000 倍」から「1500 倍」に変更し、「適用病害虫名」の「カキノヒメヨコバイ」を削除する。

⑫作物名「茶」の「使用時期」を「摘採 30 日前まで」から「摘採 45 日前まで」、「本剤の使用回数」及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「2 回以内」から「1 回」に変更する。

⑬別表のとおり、使用量の欄を追加する。

その他の登録内容、使用上の注意事項などについては、製品ラベルをご参照ください。

殺虫剤

農林水産省登録

オルトラン®

第19993号

粒 剤 アセフェート粒剤

表示変更ラベル

平成 26 年 11 月 17 日付で、以下の登録内容が変更となりました。

日本では、農薬の安全性を一層担保するために、今年から短期暴露評価が導入されることになりました。この評価にあたり、オルトラン粒剤は自主的に登録縮小の申請をし、登録されました。これは、新たに登録された使用方法で想定される最大の農薬残留が認められる作物を、たとえ通常より非常に多く1日に摂取した場合でも、健康に影響を与えないようにするためです。このため、生産者の皆さまにおかれましては、以下の新しい登録内容にてご使用いただきますようお願いいたします。

●農薬登録の削除作物について

下記作物への適用が削除されました。オルトラン粒剤の使用をしないようお願いします。

作物名
ミニトマト
はつかだいこん

●使用方法の変更作物について

今後、オルトラン粒剤は、右表のとおり農薬登録変更内容においてご使用願います。

使用上の注意事項などについては、製品ラベルをご参照ください。

【変更後】使用方法 (変更部分のみ抜粋)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ、コガ ヨウムシ アブラムシ類	3~6kg/10a (1~2g/株)	定植時	1回	植穴処理	2回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は1回以内)
	アブラムシ類	6g/m ²	育苗期	1回	散布	
トマト	アブラムシ類 オンシツコナジミ	3~6kg/10a (1~2g/株)	定植時	1回	作条散布 又は 植穴処理	1回
きゅうり なす	アブラムシ類 アザミウマ類 オンシツコナジミ				株元散布	
ピーマン	アブラムシ類	2g/株			植穴処理	
はくさい	アオムシ、コガ ヨウムシ アブラムシ類	3~6kg/10a (1~2g/株)			株元散布	
ブロッコリー	ヨウムシ	6kg/10a (2g/株)	は種前	1回	作条散布	1回
だいこん	アオムシ、コガ アブラムシ類	3~4kg/10a	収穫21日前 まで		株元散布	
かぶ	アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
れんこん					無人ヘリコプター による散布	
ばれいしょ	アブラムシ類	3~6kg/10a (1~2g/株)	植付時	1回	作条散布	3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)
たばこ	ヨウムシ、ネキリムシ アブラムシ類 アザミウマ類 ジャガイモガ ヤサイゾウムシ	3~6kg/10a	移植前		作条散布後 土壌混和	
	アブラムシ類		本畑初期	株元散布		

裏面もご覧ください。

【変更内容】

- ① 作物名「キャベツ」の「使用時期」を「定植時及び収穫 21 日前まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、「使用方法」を「定植時植穴散布及び生育期葉面散布」から「植穴処理」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「2 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 1 回以内）」に変更する。
- ② 作物名「トマト」の「使用時期」を「定植時及び収穫前日まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、「使用方法」を「定植時作条散布又は植穴散布、生育期株元散布」から「作条散布又は植穴処理」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ③ 作物名「きゅうり、なす」の「使用時期」を「定植時及び収穫前日まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、「使用方法」を「定植時条散布又は植穴散布、生育期株元散布」から「作条散布又は植穴処理」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ④ 作物名「ピーマン」の「使用時期」を「定植時及び収穫前日まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、「使用方法」を「定植時作条散布又は植穴散布、生育期株元散布」から「株元散布」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ⑤ 作物名「はくさい」の「使用時期」を「定植時及び収穫 21 日前まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」を「3 回以内」から「1 回」、「使用方法」を「植穴散布及び生育期株元散布」から「植穴処理」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ⑥ 作物名「ブロッコリー」の「使用時期」を「定植時及び収穫 14 日前まで」から「定植時」、「本剤の使用回数」及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「3 回以内」から「1 回」に変更する。
- ⑦ 作物名「だいこん」の「使用方法」を「は種前作条散布」から「作条散布」、及び「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「2 回以内（は種前及びは種時の処理は合計 1 回以内）」から「1 回」に変更する。
- ⑧ 作物名「かぶ」の「使用時期」を「収穫 14 日前まで」から「収穫 21 日前まで」に変更する。
- ⑨ 作物名「れんこん」の「使用方法」を「無人ヘリコプター散布」から「無人ヘリコプターによる散布」に変更する。
- ⑩ 作物名「ばれいしょ」の「アセフェートを含む農薬の総使用回数」を「5 回以内（植付時の処理は 1 回以内、植付後は 4 回以内）」から「3 回以内（植付時の処理は 1 回以内、植付後は 2 回以内）」に変更する。
- ⑪ 作物名「たばこ」の「使用方法」を「作条に散布し土壌混和」から「作条散布後土壌混和」に変更する。

【削除】 効果・薬害等の注意の 2～4 行目を削除してください。

- (2) 生育期に葉面散布する時はできるだけ作物の葉にのるように行うこと。ただし、播きむらがあると薬害を生じるおそれがあるので均一に散布すること。
- (3) 生育期の葉面散布は生育初期に行うこと。また、害虫の発生初期に時期を失ないように行うこと。
- (4) キャベツの場合、定植時の植穴散布のみでは効果の劣ることがあるので生育期の葉面散布を併用することが望ましい。

その他の登録内容、使用上の注意事項などについては、製品ラベルをご参照ください。